

平成28年度一橋大学附属図書館研究開発室活動報告

1. 一橋大学附属図書館研究開発室 室員名簿

	氏名	在任期間	所属	専門領域
室長	山部俊文	2014.12 ～	附属図書館長、社会科学古典資料センター長、法学研究科教授	社会法学、 民事法学
室員	夏目琢史	2014.8～ 2017.3	附属図書館助教	日本近世史
室員	福田名津子	2012.4～ 2017.3	附属図書館専門助手	西洋思想史
室員	床井啓太郎	2012.4～	社会科学古典資料センター専門助手	西洋近世史、 書誌学
室員	福島知己	2012.4～	社会科学古典資料センター専門助手	西洋思想史

2. 一橋大学附属図書館研究開発室 活動一覧

2.1. 企画実施

- ・ 特別展示「学者の肖像 学者の風景：福田徳三・中山伊知郎展」於図書館展示室、2016年5月12日～5月18日。
- ・ トークイベント「一橋大学と肖像画：修復された偉人のおもかげ」（小泉順也言語社会研究科准教授）於図書館会議室、2016年5月17日。
- ・ 企画展示「一橋大学と東京外国語大学」於図書館展示室、2016年11月1日～11月18日。
- ・ 講演会「東京外国語大学から見た一橋大学」（倉方慶明東京外国語大学文書館特定研究員）於図書館展示室、2016年11月18日。

2.2. 資料整理および公開

- ・ 梅谷文夫名誉教授寄贈古典籍の整理（継続）
- ・ 研究者手稿類アーカイブの追加（左右田喜一郎・杉村広蔵関係資料）

2.3. 学内教育活動

- ・ 学芸員資格科目「博物館資料保存論」「博物館教育論」各1回
- ・ 大学院新生ガイダンス「剽窃防止ガイダンス」
- ・ 図書館ガイダンス「レポートの書き方ワークショップ」「Before & After でわかるレポートの組み立て方ワークショップ」「卒論の書き方ガイダンス」

2.4. その他

- ・ 福田徳三研究会事務局

3. 一橋大学附属図書館研究開発室員 活動一覧

夏目琢史助教

(1) 著書・論文

『人物史 阿部猛』(共編著) 日本史史料研究会、2016年3月。

『文明・自然・アジール』(単著書) 同成社、2016年7月。

『井伊直虎』(単著書) 講談社現代新書、2016年11月。

「幸田成友論」『一橋大学附属図書館研究開発室年報』第4号、18-51頁、2016年6月。

「遠州報国隊の歴史的的前提」渡辺尚志編『移行期の東海地域史』勉誠出版、2016年11月。

そのほか、新聞・雑誌・著書等への寄稿多数。

(2) 発表・報告・講師

一橋大学社会学部講義「日本社会史特論」担当(平成28年度 夏学期 金曜2限)。

東京未来大学非常勤講師(通信制) 講座「歴史学」担当 2016年冬季。

そのほか、ラジオ・テレビ出演、講演会など多数。

(3) 視察・調査・研修

浜松市博物館、浜松市立中央図書館、金原明善記念館、静岡県立中央図書館歴史文化情報センター、群馬県立文書館、栃木県立文書館、神戸市立文書館、彦根城博物館など多数。

(4) 外部資金獲得状況

共同研究(国文学研究資料館・慶應義塾大学図書館)「古典籍画像を対象としたメタデータ記述／アノテーションに関する研究」(研究従事者、期間：平成27年9月28日～平成29年3月31日、うち平成28年12月1日～平成29年3月31日は研究代表者)

公益財団法人上廣倫理財団研究助成「『夢』と『遺言』から探る近世庶民の人生哲学」(期間：平成28年2月～平成29年1月)

科研費若手研究B「近世における井伊家旧領地間のネットワークに関する基礎的研究」(期間：平成28年4月～平成30年3月)

科研費研究成果公開促進費(データベース)「近現代日本の専門職業人養成教育資料データベース」(作成分担者、期間：平成28年度)

福田名津子専門助手

(1) 執筆

「『デジタル・ヒューマニティーズ関連ワークショップ』参加報告」『人文情報学月報』第59号後編、2016年6月。<http://www.dhii.jp/DHM/dhm59-2>

「『デジタル・ヒューマニティーズ 2.0』がもたらす人文・社会科学への影響：平成27年度デジタル・ヒューマニティーズ関連ワークショップ」『一橋大学附属図書館研究開発室年報』第4号、52-65頁、2016年6月。

「ミニ・シンポジウム「デジタル資料の展開と古典研究の可能性に向けて」その後」『日本18世紀学会学会ニュース』第83号、2016年12月、4-5頁。

(2) 発表・報告・講演

「『デジタル・ヒューマニティーズの可能性：研究に開かれた新しい目録』セッション「東京大学『アダム・スミス文庫』の新カタログ形成：デジタル資源を活用しつつ」(野原慎司、有江大介)、第80回経済学史学会全国大会、於東北大学、2016年5月21日。

(3) 視察・調査・研修

日本銀行金融研究所貨幣博物館へ視察調査、2016年7月11日。

第2回文化財保存・復元技術展「文化財特別セミナー」於東京ビッグサイト、2016年7月20日。

第10回資料保存シンポジウム「未来に遺す情報保存：収集・保存・利活用」於一橋大学一橋講堂、2016年10月3日。

Early English Books Online (EEBO) 初期英語書籍集成データベース NII-JUSTICE 共同購入コンソーシアム成立東京特別イベント、於一橋大学一橋講堂、2016年10月5日。

小樽市立総合博物館へ視察調査、2016年10月21日。

第27回保存フォーラム「デジタル時代の資料保存：英国ボドリアン図書館と一橋大学社会科学古典資料センターの事例から」於国立国会図書館、2016年12月7日。

第10回情報学シンポジウム、於日本学術会議、2017年1月12日。

講演会「オハイオ州立大学ライティング教育指導センターから見える大学教育の未来」於筑波大学附属図書館、2017年1月20日。

第1回 CODH セミナー ‘Big Data and Digital Humanities’ 於国立情報学研究所、2017年1月23日。

公開シンポジウム「学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方を考える」於日本学術会議、2017年3月1日。

床井啓太郎専門助手

(1) 執筆

「『西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業』について」『図書館雑誌』111巻2号、86-87頁、2017年2月。

(2) 発表・報告・講師

一橋大学経済学研究科剽窃防止ガイダンス講師、2016年4月1日。

「修士論文の書き方」、一橋大学附属図書館ガイダンス、於一橋大学図書館会議室、2016年4月21日。

「貴重資料の保存と活用」、神奈川県図書館協会研修会、於一橋大学図書館会議室、2016年7月15日。

「一橋大学における西洋古典資料保存の取組」、第102回全国図書館大会（第9分科会「資料保存」）、於青山学院大学、2016年10月16日。

「西洋古典資料の目録作成」、第36回西洋社会科学古典資料講習会、於一橋大学佐野書院、2016年11月18日。

「西洋古典資料の媒体変換と原本の保存」、第27回国立国会図書館保存フォーラム、於国立国会図書館、2016年12月7日。

「これからの大学図書館環境を考える」ファシリテーター、平成28年度国立大学図書館協会シンポジウム、於九州大学、LMJ東京研修センター、2017年2月20日、27日。

【非常勤講師】

大東文化大学文学部講義「情報資源組織演習A」「情報サービス演習2」担当
(平成28年度 後期)

(3) 視察・調査・研修

貨幣博物館を視察調査、2016年6月11日。

一橋大学社会科学古典資料センター主催第17回西洋古典資料保存講習会を準備運営、
2016年6月29日～7月1日。

北海道大学附属図書館視察調査、2016年9月1日～2日。

国立国会図書館視察調査、2016年10月24日。

第18回図書館総合展、於パシフィコ横浜、2016年11月10日。

一橋大学社会科学古典資料センター主催第36回西洋社会科学古典資料講習会を準備運営、2016年11月16日～18日。

大阪大学附属図書館視察調査、2016年12月21日。

東京大学経済学部資料室視察調査、2017年2月16日。

東北大学附属図書館調査視察、2017年3月8日。

関西学院大学図書館調査視察、2017年3月14日。

西洋古版本目録勉強会、於名古屋大学附属図書館、2017年3月21日。

(4) その他

日本学術振興会平成28年度「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」事業「本を残す 本を伝える～書籍の保存と修復」実施分担者、2016年9月19日。

「博物館資料保存論」（一橋大学言語社会研究科 筒井弥生）社会科学古典資料センター見学実習担当、2016年6月21日。

福島知己専門助手

(1) 論文等

福島知己「極窮の図書館 福田徳三の大学図書館観」、『一橋大学附属図書館研究開発室年報』第4号、1-18頁、2016年6月。

福島知己「R. A. Sayce「1530年-1800年に印刷された本の植字慣行と印刷地の特定」の検討(3)」、『一橋大学社会科学古典資料センター年報』37号、37-69頁、2017年3月。

(2) 発表・報告・講師

「修士論文を書く前に考えたい3つのこと」、於一橋大学附属図書館会議室、2016年4月22日。

「目録作成実習」、第36回西洋社会科学古典資料講習会、於一橋大学佐野書院、2016年11月18日。

「シャルル・フーリエは「見限られた世代」の一員か」（基盤研究(C)「近代フランスにおける社会構想の複数性と〈革命〉」研究会のための報告）、於徳島大学、2017年3月19日。

(3) 視察・調査・研修

- 日本フランス語フランス文学会 2016 年度春季大会、於学習院大学、2016 年 5 月 28 日。
- 国立国会図書館・在日フランス大使館・アンスティチュ・フランセ日本主催「日仏フォーラム 書籍とデジタル」於国立国会図書館東京本館新館講堂、2016 年 6 月 13 日。
- フランス国立図書館（パリ）にて資料調査、2016 年 7 月 27 日～8 月 4 日。
- 小樽商科大学附属図書館にて資料調査、2016 年 9 月 1 日。
- 北海道大学附属図書館を見学、2016 年 9 月 2 日。
- Early English Books Online (EEBO) 初期英語書籍集成データベース NII-JUSTICE 共同購入
コンソーシアム成立東京特別イベント、於一橋大学一橋講堂、2016 年 10 月 5 日。
- 日本フランス語フランス文学会 2016 年度秋季大会、於東北大学、2016 年 10 月 23 日。
- 国立国会図書館東京新館を見学、2016 年 10 月 24 日。
- 第 18 回図書館総合展フォーラム「学術情報流通の動向 2016」、「外国資料をめぐる課題と
その克服—アジア情報のリソースシェアリングから見えてくるもの—」、於パシフィコ
横浜、2016 年 11 月 9 日。
- 第 2 回 NDL デジタルライブラリーカフェ「デジタルコレクション 自動テキスト化への
道」、於国立国会図書館東京本館、2016 年 11 月 25 日。
- 一橋大学大学院言語社会研究科主催レクチャーシリーズ「本をめぐる物語 1 国松孝二が
旅した本の世界—国松文庫の整理を終えて—」、於一橋大学国際研究館、2016 年 12 月
2 日。
- 名古屋大学附属図書館研究開発室（書誌合同演習）を見学、2016 年 12 月 27 日、2017 年 1
月 27 日、2 月 21 日。
- 東洋文庫アジア資料学研究シリーズ「モリソンコレクション将来 100 周年記念—資料調査
の意義と課題 コディロジーの未来をみつめて 「紙」・「印刷」・「出版」を科学す
る」、於東洋文庫、2017 年 1 月 28 日。
- 東京大学経済学部資料室を見学、2017 年 2 月 16 日。
- 関西学院大学図書館を見学、2017 年 3 月 14 日。
- 九州大学附属図書館を見学、2017 年 3 月 27 日。

(4) その他

日本学術振興会平成27年度「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」事業「本を残す 本を伝える～書籍の保存と修復」実施代表者、2016年9月19日。

一橋大学社会科学古典資料センター主催第36回西洋社会科学古典資料講習会を企画準備運営、2016年11月16日～18日。

一橋大学附属図書館・社会科学古典資料センター主催 平成28年度文化的・学術的資料の保存シンポジウム「書物の構成要素としての紙について～本の分析学」を企画準備運営、2017年2月15日。

福田徳三研究会編『福田徳三著作集第15巻 黎明録』信山社、2016年5月、編集協力者。

福田徳三研究会編『福田徳三著作集第16巻 暗雲録』信山社、2016年7月、編集協力者。

福田徳三研究会編『福田徳三著作集第3巻 国民経済講話1』信山社、2017年1月、編集協力者。

4. 関連規則・規程

- 一橋大学附属図書館研究開発室規則

平成24年3月7日

規則第31号

(趣旨)

第1条 この規則は、一橋大学附属図書館規則（平成16年規則第178号）第5条第2項の規定に基づき、一橋大学附属図書館研究開発室（以下「研究開発室」という。）の組織及び業務等について必要な事項を定める。

(業務)

第2条 研究開発室は、次に掲げる業務を行う。

- 一 電子情報及び紙媒体の資料の収集及び保存並びに利用者へのサービス提供等に関する調査研究
- 二 歴史的資料の保存及び公開に関する調査研究
- 三 附属図書館の情報発信の機能強化に関する調査研究
- 四 高度な専門知識を有する図書館職員の養成
- 五 その他図書館機能の強化に関する調査研究

(組織)

第3条 研究開発室は、室長及び室員をもって組織する。

- 2 室長は、附属図書館長をもって充てる。
- 3 室長は、研究開発室の業務を掌理する。
- 4 室員は、室長の推薦に基づき、学長が任命する。
- 5 室員は、研究開発室の業務に従事する。

(室員以外の協力者)

第4条 室長は、研究開発室の業務を推進するため、一橋大学教職員又は学外の有識者に協力を依頼することができる。

(事務)

第5条 研究開発室の事務は、学術・図書部学術情報課が行う。

(雑則)

第6条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

- 一橋大学附属図書館研究開発室年報 編集規程

平成24年11月16日

附属図書館長決裁

(目的)

1. 一橋大学附属図書館研究開発室年報(以下「本誌」という。)は、一橋大学附属図書館研究開発室(以下「研究開発室」という。)の年間の活動及び研究成果を公表することを主たる目的とし、併せて本学の図書館活動に関わる事業・調査・研究報告を掲載することとする。

(編集委員会)

2. 編集委員会を研究開発室内に設置する。編集委員会は、研究開発室長、研究開発室専任室員、学術・図書部長及び学術・図書部学術情報課長から構成し、本誌編集に関する業務を管掌する。

(校正)

3. 初校正及び再校正は、著者の責任で行う。

(著作権)

4. 本誌に掲載された著作物の著作権は著者に帰属する。ただし著者は、本誌を印刷物として発行すること、電子化しインターネットを通じて公開することを許諾する。

5.

- 一橋大学附属図書館研究開発室年報 投稿規程

平成24年11月16日

附属図書館長決裁

1. 本誌の編集目的と合致する未発表原稿を、電子ファイルの状態で本学附属図書館研究開発室に投稿する。
 2. 受理する電子ファイルは、プレーンテキストないし Microsoft Word 形式に限る。
 3. 原稿には下記項目を記した投稿票を添付する。同票の形式は自由とし、電子メールで投稿する場合はメール本文に記すのも可とする。原稿が論文の場合は (1)~(6)、報告の場合は (1)~(4) を必須記入事項とする。なお、共著の場合は、著者と所属の対応関係が分かるように記すこと。
 - (1) 原稿の種類：報告／論文
 - (2) タイトル（日本語、英語）
 - (3) 著者名（日本語表記、アルファベット表記）
 - (4) 所属（日本語、英語）
 - (5) 要旨（日本語で250字以内、およびその英訳）
 - (6) キーワード（5点程度、日本語および英語）
 4. 原稿は1段組みの横書きとし、1頁あたり40文字、30行で作成する。
 5. 原稿は本文及び図表・図版、文末脚注を含め、20頁以内とする。
 6. 句読点は「、」「。」を使用し、英数字は半角、その他は全角で入力する。
 7. 文献の書誌事項は、科学技術情報流通技術基準 SIST 02-2007「参照文献の書き方」に準拠する。
- その他不明な点があれば、本誌編集委員会に照会する。